

## クマに会う

三宅 隆



少しこちらを警戒しているが、向かってくる様子はなかった



近くにあったクマの糞



自動撮影装置のカメラに写った、木に登ろうとするクマ

フィールドで哺乳類調査を行なっている人にとっても、野生動物を目視することは難しく、シカやサル、カモシカを除くと、昼間はめったに動物にはお目にかかれません。クマについては、鉢合わせはしたくないのですが、安全に遠目からなら会いたいと思っていました。私は今までクマには一度しか出会っていませんでしたが、今年の7月、南アルプスの調査で、偶然至近距離で出会ってしまいました。出会った瞬間「やばい！」と思って急いで車に戻ったのですが、すぐにカメラを取りだして撮影していました。

クマとの距離は10m位でしたが、道路の石

垣の下で、かつ若いクマで、おなかがすいているようで、ほとんどこちらを気にする様子もなく、餌探しをしていました。すぐ横のサクラの木には、爪痕やサクランボの実のたくさん入った糞が残されていました。この木にいついていると感じて、自動撮影カメラを設置しておいたところ、夜間、サクラの木に登る様子や地上に落ちたサクランボを食べる様子が動画に写っていました。本州最大の肉食獣で、人間との軋轢も大きくいろいろな問題を抱えているクマですが、何とか共存する方法を見出したいものです。